

主の祈り (93-5A)

天にまします われらの父よ
ねがわくは、み名をあがめさせたまえ
み国をきたらせたまえ
みこころの天になるごとく、地にもなさせたまえ
われらの日用の糧（かて）を、今日もあたえたまえ
われらに罪をおかすものを、われらがゆるすごとく
われらの罪をもゆるしたまえ
われらをこころみにあわせず、悪よりすくいだしたまえ
国と ちからと さかえとは、かぎりなく、
なんじのものなればなり

アーメン

石巻栄光教会宣教基本方針

石巻栄光教会は、主なる神と出会うイエス・キリストの体です。神様が愛している一人一人のかけがえのなさを思い出し、この世界を神様が大切にしていることを思い出す場所です。石巻栄光教会は、希望を生み出します。

私たちは、この社会の現実の中で生きています。教会の中だけでの満足にとどまらず、社会に生きる人々の痛みや苦しき、あるいは楽しみを共にしていくこと、そして、悩みや不安を分け合って喜びに変えていく教会になることを願います。

また、一人一人の生き方を尊重するとともに、神様から一人一人に与えられている賜物を活かして、神さまと人を愛し、感謝しながら地域に仕えていく教会を目指します。



日本キリスト教団 石巻栄光教会

〒986-0854 石巻市大街道北2丁目12-3

電話/FAX: 0225-22-4090

ホームページ: <http://tohoku.uccj.jp/i-eikou>

メール: i-eikou@tohoku.uccj.jp

振替口座: 02280-8-2810

教会創立: 1887年9月25日

集会案内

聖日礼拝	毎週日曜日	午前10:30
早朝礼拝	毎週日曜日	午前7:30
交わりの会	毎週日曜日	礼拝後
み言葉と祈りの会	毎週水曜日	午後7:30

2024年度標語 『これは、人の意志や努力ではなく、
神の憐れみによるものです』

- ◎ 聖日礼拝を共に守りましょう。
- ◎ 日ごと聖書に聞き、祈りましょう。
- ◎ 家族・地域に福音を届けましょう。
- ◎ 平和を創り出すために働きましょう。



受付
司會
獻金
奏樂

礼拝当番は
礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

前招請一者。謂之祝後。

今日の礼拝は、
日本基督教団「礼拝式文」試行版
を用います。

別紙に印刷いたしますから、
週報別冊と共に、
どうぞ、ご覧ください。

- *当教会では 着席のまま礼拝を守っています。
- *旧約聖書は前半(P.1502まで)、新約聖書はその後ろです。
- *献金の額はいくらでも結構です。持ち合わせがないときは次の機会に。

∞○∞○∞○∞○ お知らせ ∞○∞○∞○∞○

本日10時半の礼拝は、「暑さ対策」の緊急措置として、会場を園舎1階「のあ」に変更し、試行版の礼拝をいたしました。次週以降、どのようにするか、今日の様子を見て、また決めたいと思います。

○○○○○○ 今週の集会 ○○○○○○

☆ 「キリシタン読書会」 8月13日(水)14:00～ 十三浜にて
☆ 「御言葉と祈りの時」 8月13日(水)19:30～ オンライン併用

∞∞∞ 次週の予告 (8/17) ∞∞∞

☆ 主日礼拝（お話：川上直哉 牧師）

〔聖書〕 ルカによる福音書12章48節

「お 話」 「神様の期待」

この日の10時半からの礼拝も「暑さ対策」として、園舎1階を検討しています。

受 付

奏樂

礼拝当番は礼拝堂に集まった人の中で
可能な方に担当いただきます。

∞○∞○∞○∞○∞ お知らせ ∞○∞○∞○∞○∞

✦今後の予定は以下の通りです

- ・8月25～26日(月・火) 同信伝道会神学協議会(京都にて)
- ・9月10日(水) 東京で佐山さんたちと聖餐式
- ・9月14日(日) 礼拝堂で聖餐式
- ・9月28日(日) 日本基督教団石巻山城町教会 牧師就任式
- ・10月5日(日) 日本基督教団 柴宿教会 礼拝担当
- ・10月12日(日) 日本基督教団 涌谷教会 礼拝担当

《 先週の集会統計 》			
聖日礼拝	13人	み言葉と祈りの会	-
早朝礼拝	-	聖餐式	-
月定献金		特別献金	
席上献金	¥19,000		

週報別冊

2025 年 8 月 10 日号

1. 教会宛に、以下の通信が届いています。

【日本基督教団石巻栄光教会関係】

- 「まきびと」(社会福祉法人牧人会) : 「2025 年度も福祉需要の変化に応え、誠実に地域社会に仕える当会の事業活動をご支援下さい」と、山下勝弘理事長の挨拶が掲載されています。

【日本基督教団・東北教区関係】

- 「宣教東北」(日本基督教団東北教区) : 川上牧師も登壇した「伝道研修会」の報告等が掲載されています。
- 「ミッションニューズレター」(キスト岡崎エイブラハム・さゆ里宣教師) : アメリカ改革派教会からの宣教師として日本基督教団で30年働いておられる先生の通信です。
- 「希望に生きる教会」(日本基督教団東北教区山形地区) : 「東北教区伝道研修会の報告」と題して、教誨師の報告会を行ったことを、天童教会の原裕牧師(山形刑務所教誨師)が記しています。
- 「2025年度 東北教区カルト問題研修会のご案内」(日本基督教団東北教区カルト問題対策特設委員会) : 9月8~9日(月~火)に白河市で「だから知ってほしい『宗教2世』問題」と題して塚田穂高さん(文教大学教授)の講演会が行われることの連絡を頂きました。

【その他教会・団体関係】

- 「WCRP」(世界宗教者平和会議日本委員会) : 川上牧師も出席した「東京平和円卓会議」の報告等が掲載されています。
- 「INSIGHT」(仙台クリスチャン・アート・フェスティバル) : 9月13日から仙台地下鉄 国際センター駅2階にて、展示会が行われる連絡を頂きました。

- 「支縁」(神戸国際支縁機構) : 「3. 11」支援の継続として、今年の5月20日に石巻市さくら町の幼稚園で「田植え体験」をしたことの新聞記事などを頂きました。

2. 牧師動静

8月4日(月)

熊本から帰ってきました。

8月5日(火)

日中、休暇を頂き、夜、東北ヘルプ理事会を主宰しました。

8月6日(水)~8日(金)

広島へ出張し、6日と8日は広島YMCA「ピースセミナー」を見学し、7日は真宗学寮の「平和の集い」に登壇して、石巻に戻りました。

8月9日(土)

教会学校の「遠足」で、ベネーランドに行きました。

- 軽井沢・東京・いわき・能登・熊本・広島と続いたこの夏の出張も、無事に守られました。この後は、京都に同信伝道会の神学協議会がごぞいます。お祈りに支えられています。心から、感謝いたします。
- 本日、仙台のカトリック元寺小路教会にて、平和祈禱会があります。「80年」を記念する平和主日を覚え、聖書に聴き、祈ります。その後、石巻専修大学の西川慧先生と川上牧師が「いのちと平和」を中心に、対話をします。川上牧師は準備のために1時到着の予定で会場に参ります。ご一緒くださる方は、どうぞ、お知らせください。

10 時半からの礼拝のための聖書

8月11日（月）

午前中、一件の訪問をします。

8月12日（火）

午前中、宮城刑務所で教誨活動をし、午後、世界食料デー仙台大会の発送作業を日本ナザレン教団仙台富沢教会で行います。

8月13日（水）

午前中、休暇を頂きます。午後、十三浜でキリシタン読書会を主宰します。

8月14日（木）

終日、休暇を頂きます。

8月15日（金）

午前中、ワイズメンズクラブ全国大会のための会議のために利府に行き、午後、休暇を頂きます。

8月16日（土）

終日、休暇を頂きます。

※牧師と面会をご希望される方は、どうぞ、ご遠慮なく教会のメール宛、ご連絡ください。上記日程を調整して、お会いしたく存じます。

旧約書 民数記6編24節

主があなたを祝福し

あなたを守られるように。

使徒書 エフェソの信徒への手紙5章8-9節

光の子として歩みなさい。

光の結ぶ実は

あらゆる善と義と真理との内にあるからです。

福音書 マタイ福音書28章20節

私は世の終わりまで

いつもあなた方と共にいる。

サント サント サント

Santo, santo, santo
詞：作詞者不詳SANTO
曲：作曲者不詳

San - to, San - to, San - to. i Mi cor a - zón te a - do ra i Mi
Cor a - zón te sa - be de-cir: i San - to-eres Señ - or i

(♩ = 80)

サント サント サント、(聖なるかな)

心をこめて、ささげよう祈り、

聖なる主に。※「サント」はスペイン語で「聖なるかな」の意味。

黙4:8 1サ6:3

122

主日礼拝式 A

《神の招き》

前奏

(着席)

奏楽者による前奏が礼拝の開始を告げる。会衆は心を静めて礼拝に備える。奏楽曲
選択にあたっては、当日の教会暦上の位置や聖書朗読箇所などを十分考慮する。

招詞

(着席)

司式者が告げる主の招きの言葉を聞く。『讃美歌21』93-1に招詞の例がある。以下
の司式は牧師または、教会役員などの信徒が十分な準備をもって行う。

主に向かって喜び歌おう。

救いの岩に向かって喜びの叫びをあげよう。

御前に進み、感謝をささげ

楽の音に合わせて喜びの叫びをあげよう。

主は大いなる神

すべての神を超えて大いなる王。

(詩編 95・1～3)

賛美

(起立)

会衆は主の招きに応え、賛美において一つとされる。礼拝の開始にふさわしい賛美歌を選ぶ。招き(『讃美歌21』1～6)、讃美・感謝(同7～21)、詩編(同113～172)、主の日(同202～207)、その他、適宜賛美歌を選択。賛美の後、司式者と会衆との挨拶が交わされてもよい。

司式者

主が皆さんと共におられますように。

会衆

主があなたと共におられますように。

罪の告白

(起立)

へりくだった心で神に向かうよう罪を告白する。懺悔の祈り、または悔い改めの詩編の交読などがなされる。祈祷文参照。

司式者

全能の神に罪を告白しましょう。

一同 (または司式者)

わたしたちの主イエス・キリストの父、万物の造り主、すべての人の裁き主である全能の父、わたしたちは思いと言葉と行いによって罪を犯しました。深く悲しんで懺悔いたします。どうか、御子イエス・キリストのゆえに、すべての罪をお赦しください。これからのち、新しい人として主に仕えて、御名の栄光をあらわすことができますように。主イエス・キリストの御名によって(祈ります)。

一同

アーメン。

25

礼拝 頌栄
父・子・聖霊に

EHR SEI DEM VATER
曲：Soest, 1532

ち ち・子・せ い れ い に み さ か え あ れ。

は じ め に あ り て い ま も あ り と わ に い ま す

主 を た た え ん。 ア - - - - - メ ン。

父・子・聖霊に 栄えあれ。
はじめにありて 今もあり
とわにいます主をたたえん。
アーメン。

詩115：1, 18 黙4：8 ヘブ13：8

26

礼拝 頌栄
グロリア、グロリア、グロリア

Gloria, Gloria, Gloria
詞：テゼ共同体

GLORIA PATRI ET FILIO
曲：Jacques Berthier, 1923-1994

グロリア グロリア、グロ リ ア、 ち ち と み 子 に、
Glo-ri-a, Glo-ri-a, Glo-ri-a Pa-tri et Fi-li-o
(グロリア グロリア、グロ リ ア パ トリ エ ト フィ リ オ

グロリア、グロリア、グロ リ ア、 せ い な る 霊 に。
Glo-ri-a, Glo-ri-a, Glo-ri-a Spi-ri-tu-i San-cto.
グロリア、グロリア、グロ リ ア スピリトゥイ サン クト。)

(♩=72)

グロリア、グロリア、グロリア、
父とみ子に、
グロリア、グロリア、グロリア、
聖なる霊に。

ルカ2：14

赦しの言葉

(起立)

罪の赦しを告げる言葉が司式者によって語られる。祈祷文参照。

司式者

全能の神、わたしたちの父は、心から悔い改め、まことの信仰をもつて主に立ち帰るすべての人の罪を赦すと約束されました。主があなたがたを憐れみ、すべての罪から清め、永遠の命を受け継ぐ者としてくださいますように。

一同

アーメン。

憐れみの賛歌(キリエ)

(起立)

主に呼びかけて、憐れみを願う。歌う場合は、『讃美歌21』30～35、134の各節などがある。

司式者

主よ、憐れんでください。

会衆

キリストよ、憐れんでください。

司式者

主よ、憐れんでください。

頌栄(グロリア)

(起立)

神の愛と恵みを覚えて、神に栄光を帰す。『讃美歌21』24～29。なお、十戒、その他の『主の戒め』を用いる場合は頌栄の後に行う。『讃美歌21』93～3参照。また、平和の挨拶(下記)をここで行うこともできる。

《神の言葉》

祈祷(聖霊の照らしを求める祈り)

(着席)

御言葉を正しく受けとめることができるように、聖霊の導きを求めて祈る。祈祷文参照。

司式者

主なる神よ、わたしたちの心を整えて、御言葉を受け入れるにふさわしい者としてください。御言葉以外のいかなる声にも惑わされず、これを聞いて、御心に従うことができますように。主イエス・キリストの御名によって（祈ります）。

一同

アーメン。

聖書朗読

（着席）

聖書朗読によって神の語りかけを聞く。旧約の後に「交読詩編」や応答唱（「讚美歌21」45～49）や詩編歌（同113～172）、使徒書と福音書の間ハレルヤ（同39）を入れることもできる。ハレルヤと福音書の朗読では一同起立するのもよい。朗読は司式者が朗読奉仕者が十分な準備をもって行う。聖書個所の選択のためには「日毎の糧」（日本キリスト教団出版局）の主日日課が参考になる。そこにはまた主日ごとの詩編もあげられている。

旧約書

使徒書

（交読詩編、詩編歌または応答唱など）

（ハレルヤ）

福音書

賛美

（起立）

説教に先立って神を賛美する。神のことは・聖書（「讚美歌21」50～60）、聖書の歌（同184～201）、教会暦（同223～364）、行事暦（同365～389）、その他、適宜賛美歌を選択。聖書朗読の中で詩編歌やハレルヤが用いられた場合などには、この賛美は省略してもよい。

説教

（着席）

朗読された聖書の言葉が解き明かされる。通常牧師または伝道師が十分な準備をもって行う。

祈 禱

(着席)

一項目設けたが、これは礼拝式の一要素というよりも説教に付加的なものである。説教者が自由祈禱をするか、説教の結びとして、次のような神をほめたたえる言葉を用いる。

説教者

主なる神よ、御言葉を与えてくださったことを感謝いたします。「賛美、栄光、知恵、感謝、誉れ、力、威力が、世々限りなくわたしたちの神にありますように」。

(黙示録 7・12)

(その他、ローマ 11・33、36、エフェソ 3・20、1・21、イテモテ 1・17、6・15、16、Iペトロ 5・10、11、黙示録 1・5b、6 などから適宜用いる)
アーメン。

一同

賛 美

(起立)

御言葉の部を締めくくる賛美。当日の聖書朗読と説教の内容にふさわしい賛美歌が

歌われる。

《感謝の応答》

信仰告白

(起立)

聖書朗読と説教を通して聞いた神の言葉に共鳴して、教会の信仰をもって応答することができるだけ公同的な信条(使徒信条、ニカイア信条)を用いる(『讃美歌 21』93-4)。

(※洗礼、信仰告白「堅信礼」、その他「教会の営み」に関する式はここで行う)

祈 禱 (とりなしの祈り)

(着席)

教会とすべての人々のために神の恵みを求める。これは、キリスト者の大切な務めである(イテモテ 2・1-7)。世界に広がる神の教会のため、世界と我が国のため、為政者たちのため、地域社会のため、苦難の中にある人々のため、その他、助けを

501

主よみちびきの手を

「なんじそのさとしをもて我をみちびき」

Saviour, lead me lest I stray
FRANK M. DAVIS, 1839-1896 (T/N)

84 = ८४

LEAD ME, SAVIOUR
FRANK M. DAVIS, 1839-1896

[illegible]

なと主わ
 がきはが
 そちな目
 ばに^{うめ}かだあ
 あわを
 るにば
 せん
 そに^にあ
 る
 こさふゆこ
 のおきめ
 みささみの
 はすりしたわ
 すれまが
 しはわん
 (や)すしは
 (わ)れは
 (た)まわん
 (わ)がし
 (や)すし

(おりかえし)

Handwritten musical score for the song 'Orikaeshi' (おりかえし). The score is written on two staves. The top staff is in treble clef and the bottom staff is in bass clef. The melody is written on the top staff, and the lyrics are written below it. The lyrics are: まよ まよ な が つ つ よ よ き て に わ れ を. The music is in a simple, folk-like style with a key signature of one flat (B-flat) and a 4/4 time signature. The melody is simple and easy to remember.

み ち び き た ま え つ ね に か よ わ き わ れ を
み ち び き た ま え つ ね に か よ わ き わ れ を

1) ちゆう=とゆう。2) さねさす=舟を進めること。

必要とする人々のため。祈祷文参照。

司式者

心を合わせてとりなしの祈りをしましょう。

父なる神よ、あなたは祈りに応えて恵みを与えてくださいます。
どうか、今わたしたちがささげる祈りをお聞きください。

全世界のため、すべての国民とその政府のために祈ります。

主よ、世界のすべてのところに、自由と平和をもたらしてください。

また、政治に携わる人々に貧困や対立を克服する知恵と力をお与えくださいように。

世界に広がるすべての教会のために祈ります。

主よ、教会がその聖霊の賜物を再び燃えたたせ、その信仰を新たにし、

その一致と交わりを深めることができますように。

教会員のために祈ります。

主よ、わたしたちすべてを従順な者とし、御言葉と聖餐によって豊かに養い、あなたを証しする生活に励む者としてくださいますように。

今日ここに出席できなかった友のために祈ります。

主よ、病気やおとろえ、仕事や妨げなどによって、ここに來ることができなかった人々がおります。どうか、キリストが共にいまして、その人々にいやしと励ましと導きを与えてくださいますように。

身近な人々のために祈ります。

主よ、わたしたちの家族や隣人、学校や職場の仲間を覚えます。わたしたちとの日々の交わりの中で、御子イエス・キリストが注いでくだ

さる大きな愛に、気が付くことができますように。

この地域の学校や教育機関のために祈ります。

主よ、子供たちや若者が、そこにおいてよい学びと訓練を受け、この時代の混乱に対処するために、また将来の務めに備えるために、十分な力を身につけることができますように。

苦しんでいる人々のために祈ります。

主よ、病氣の人、試練の中にある人、悩んでいる人、悲しむ人を、思い起こします。どうか、今これらの人々が必要としている助けをお与えください。また、死の時を迎えようとしている人々が、恐れることなく、平安のうちにみもとに行くことができますように。

今も生きておられて、とりなしてくださる方、主イエス・キリストの御名によって（祈ります）。

一同 アーメン。

とりなしの祈りの後、または祈りの中の適当な位置で、会衆による沈黙の祈りを設けてもよい。

平和の挨拶

（起立）

司式者による平和を告げる言葉の後、会衆は互いに挨拶を交わし、相互の交わりと和解を確認する。聖餐が行われる場合は、平和の挨拶は『主の祈り』の後、または陪餐後になされてもよい。

司式者 平和の挨拶を交わしましょう。

「キリストの平和があなたがたの心を支配するようにしなさい。この平和にあずからせるために、あなたがたは招かれて一つの体とされたのです」。

（コロサイ3・15）

キリストの平和があなたがた一同と共にありますように。

会衆 キリストの平和が、あなたと共にありますように。

会衆は平和と和解のしるしとして、握手やお辞儀によって、挨拶を交わす。

(※聖餐が行われない場合は、以下、奉献「献金」、献金後の感謝の祈り「祈祷文参照」、『主の祈り』の後、『派遣』の部へと進む)

聖餐

感謝の応答の頂点として、「これを行いなさい」とのキリストの制定の言葉に従って、聖餐が行われる。その場合、以下の司式は正教師が行う。

奉献

(着席)

自分の体を神に献げることのしるしとして献金が献げられる。また、パンとぶどう酒が聖卓に用意される。すでに聖卓に置かれているなら覆いを取り除かれる。

牧師 感謝の献げ物をしましょう。

献げ物が集められる。その間、聖歌隊の賛美や適切なオルガン奏楽がなされてもよい。集められたら、感謝の祈り(祈祷文参照)、あるいは適当な賛美歌を歌う。『讃美歌21』64、65-1、65-2など。さらに次のようにすることもできる。

牧師 天と地にあるすべてのものはあなたのもの。(歴代上29・11)

会衆 すべてはあなたからいただいたもの、わたしたちは御手から受け取って、差し出したにすぎません。(歴代上29・14)

一同 アーメン。

主の食卓への招き (着席)

牧師は聖卓の前に立ち、会衆を聖餐に招く言葉を語る。

1

兄弟姉妹、今から神の民の祝宴が開かれます。
主は言われました。

やがて人々は東から西から、北から南から来て、
神の国で共に食卓に着く。

(ルカ 13・29)

また、福音書は伝えています。

復活の主は弟子たちと食事の席に着いたとき、
パンを取り、祝福してそれを割き、お渡しになった。
すると、弟子たちの目が開かれ、それがイエスだと分かった。(ルカ 24・30、31)

今から、主の食卓が開かれます。

主は信じる者たちを招かれ、

御自分が用意された祝宴にあずからせてくださいます。

2

主は言われました。

はつきり言うておく。人の子の肉を食べ、その血を飲まなければ、
あなたたちの内に命はない。

わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、永遠の命を得、
わたしはその人を終わりの日に復活させる。

わたしの肉はまことの食べ物、わたしの血はまことの飲み物だからである。
わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む者は、
いつもわたしの内におり、わたしもまたいつもその人の内にいる。

(ヨハネ 6・53-56)

3

主は言われました。

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。
だれかわたしの声を聞いて戸を開ける者があれば、
わたしは中に入ってその者と共に食事をし、
彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。

(黙示録 3・20)

感謝聖別祷

(起立)

会衆は司式者が唱える感謝聖別祷に参加するよう招かれる。感謝聖別祷はキリスト教信仰の全体を祈りのかたちで言い表したものである。教会の信仰を要約し、それを祈りにおいて宣べ伝えることは古来教職者の最も重要な務めであった。

〈心を高くあげよ スルスム・コルダ〉

牧師 主が皆さんと共におられますように。
会衆 主があなたと共におられますように。

牧師 心を高くあげなさい。
会衆 主に向かって高くあげます。
牧師 神である主に感謝をささげましょう。
会衆 それはふさわしい大切な務めです。

(ルツ 2・4、ルカ 1・28)

〈叙唱〉

感謝の祈りの始まりの部分。旧約聖書に基づく創造と贖いにまで遡る。叙唱または序唱 (praefatio) は、「序詞」の意味のほかにも人前で「朗読」の意味もあった。

牧師 聖なる父、とこしえにいます全能の神、いっどこにあっても、主キリストによって賛美と感謝をささげることは、まことにふさわしい大切な務めです。世界の創造者、また統治者である神よ、あなたはその知恵によって万物を造り、その御力をもって万物を保っておられます。また、あなたは御自分にかたどってわたしたちをつくり、あなたを愛

し、あなたに仕え、全被造物と平和のうちに生きるために、この世界に住まわせられました。わたしたちがあなたに逆らい、信頼と服従を拒んだ時にも、あなたはわたしたちをお見捨てにならず、御自分のものと呼んでくださいました。あなたはわたしたちを御自分の道に立ち帰らせるために、預言者たちをお遣わしになりました。そして、あなたは時が満ちるに及んで、大いなる愛によって、その独り子を世に遣わしてくださいました。(特別叙唱がここに付け加えられてもよい。祈祷文参照)

それゆえに、わたしたちは力ある神でいますあなたをあがめ、天の全会衆と共にあなたの御名をとこしえにほめたたえます。

〈聖なるかな サンクトウス〉

イザヤ6・3、黙示録4・8、マタイ21・9に基づく。『讚美歌21』83。ホサナは「救いたまえ」の意。転じて歓呼の言葉となった。

一同

聖なるかな、聖なるかな、聖なるかな、
万軍の神である主、
主の栄光は天地に満つ。
いと高きところにホサナ。
主の御名によって来られる方に祝福があるように。
いと高きところにホサナ。

〈感謝の祈り〉

キリストの救いの御業に対する感謝。受肉から再臨までを視野に入れた祈り。

牧師

全能の父なる神、あなたは独り子イエス・キリストを世に遣わされ、憐れみ深い御心を明らかにしてくださいました。キリストはマリアから生まれて肉体をとり、すべての点でわたしたちと同じになられました。そして、ひとたびその身を献げて、まったく傷のない犠牲となり、

全世界の罪をその身に負われました。また、聖餐を制定され、主が再び来られる日まで、主の死を記念するようにとお命じになりました。

主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを割き、そして言われました。(牧師はパンを高く挙げて会衆に示す)「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこれを行いなさい」。

また、食事の後で、杯も同じようにして、言われました。(牧師は杯を高く挙げて会衆に示す)「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこれを行いなさい」。

わたしたちは、御子イエス・キリストの苦しみと死、復活と昇天とを記念し、また御子が再び来たりたもう日を待ち望みつつ、あなたの大いなる恵みを感謝いたします。

〈聖霊の働きを求める祈り エピクレシス〉

聖餐を実りあるものにする聖霊の働きを祈願する。以上のように、感謝聖別祷は三位一体論的構造をもっている。

牧師

憐れみ深い父、わたしたちの祈りを聞き、このパンとぶどう酒を受け入れ、御言葉と聖霊によって聖なるものとしてください。そして、これによって、御子イエス・キリストの尊い体と血にあずからせてください。そして、これにあずかる者が、みなキリストと一つ体となり、永遠の命を受け継ぐことができますように。

前出のとりなしの祈りがここに来てよい。

〈頌栄〉

三位一体論的な頌栄。アーメンで結ばれる。

牧師

神よ、わたしたちは今、天と地にあるすべての信仰者との交わりの中で祈ります。あなたの愛と救いの御計画を、わたしたちの上に、そしてすべての人々の上に、成就してください。わたしたちの主イエス・キリストの御名によって祈ります。キリストによって、キリストと共に、またキリストの内に、聖霊の交わりの中で、すべての誉れと栄光が、代々限りなく全能の父でいます、あなたにありますように。

一同

アーメン。

陪餐

〈主の祈り〉

陪餐準備として『主の祈り』が唱えられる。口語訳を用いる場合は、『讃美歌21』93-5などを参照。

司式者

一同

救い主イエス・キリストの教えに従い、主の祈りを唱えましょう。
天にまします我らの父よ、

ねがわくはみ名をあがめさせたまえ。

み国を来らせたまえ。

みこころの天になるごとく

地にもなされたまえ。

我らの日用の糧を、今日も与えたまえ。

我らに罪をおかす者を、我らがゆるすごとく、

我らの罪をもゆるしたまえ。

我らをこころみにあわせず、

悪より救い出したまえ。

国とちからと栄えとは

限りなくなんじのものなればなり。

アーメン。

〈パン割き〉

牧師 パンは一つだから、わたしたちは大勢でも一つの体です。
会衆 皆が一つのパンを分けて食べるからです。

(牧師は会衆に見えるようにパンを取ってそれを割き、次のように言う)

牧師 わたしたちが割くパンは、キリストの体にあずかることではないか。
会衆 アーメン。

(牧師は会衆に見えるように杯を手に取り、次のように言う)

牧師 わたしたちが神を賛美する賛美の杯は、キリストの血にあずかること
ではないか。
会衆 アーメン。
(Iコリント10・16～17)

〈神の小羊 アニユス・デイ〉

続いて「神の小羊」(世の罪を取り除く神の小羊)を一同で唱える。または歌ってもよい。『讃美歌21』86～87。

一同 世の罪を取り除く神の小羊、憐れんでください。

世の罪を取り除く神の小羊、憐れんでください。

世の罪を取り除く神の小羊、平安をお与えください。

(ヨハネ1・29、黙示録5・6。イザヤ53・7も参照)

〈分餐〉

(会衆席に配餐される場合は着席)

会衆が聖卓を囲んで順次陪餐する。あるいは配餐者の前に進み出て陪餐する。あるいは会衆席にパンと杯が配餐される。陪餐の間は沈黙、オルガンの奏楽、あるいは一人または複数によって賛美歌が歌われてもよい。

牧師

(パンを配るとき)

これは、あなたがたのために与えられた主イエス・キリストの体です。

牧師

(杯を配るとき)

これは、あなたがたのために流された主イエス・キリストの血潮です。

〈陪餐後の感謝の祈り〉

聖餐にあずかったことを感謝し、信仰生活の聖化を求めて祈る。一同で祈ってもよい。
一同で祈る場合は起立する。

牧師

とこしえにいます全能の神よ、わたしたちを御子イエス・キリストの尊い体と血によって養ってくださったことを感謝いたします。あなたは、これによってわたしたちに対する愛と恵みを示し、わたしたちが御子の体の肢であること、御国の世嗣であることを確かにしてください。

《派遣》

いました。今、イエス・キリストを通して、自分の体を生きた聖なる供え物として献げます。どうか、聖霊を注いでわたしたちをこの世に遣わし、御心に適うことを行わせてください。主イエス・キリストの御名によって(祈ります)。アーメン。

報告

(着席)

司式者または適当な係により、教会の活動や教会員の消息などにつき報告がなされる。これは礼拝後の交わりと奉仕の前提となる。時間のかかる報告や新来者の紹介などは後奏の後にしてもよい。

賛美

(起立)

主日礼拝を終了するにあたり、賛美歌が歌われる。祝福との関連で、派遣をテーマにしたものがよい。『讃美歌21』88、92、99(三節)、180、519(三、四節)、564(三節)

など。

祝福

(起立)

牧師は会衆を祝福する。「讃美歌21」93-7参照。会衆は世に派遣されて証しの務めを果たす。その際、派遣の言葉を伴うことが適切である。「讃美歌21」93-6参照。派遣の言葉と祝福の言葉の順序は逆にしてもよい。

牧師

平和のうちに、この世へと出て行きなさい。主なる神に仕え、隣人を愛し、主なる神を愛し、隣人に仕えなさい。

主イエス・キリストの恵み、神の愛、聖霊の交わりが、あなたがた一同と共にあるように。アーメン。

(Ⅱコリント13・13)

後奏

(着席)

この間、会衆は沈黙のうちに派遣の祝福を受けとめる。

退堂(奏楽)

奏楽の中、牧師・伝道師その他が中央通路から退堂する。奏楽が終わったら、会衆も順次退堂する。条件が整わない場合は、このかぎりではない。